

2月25日(日)

藤市民会館 大ホール

☎048-445-7660

前売り券500円4作品鑑賞可 当日券500円 1作品ごと



① 10時~12時04分

山椒大夫



② 13時~14時43分

近松物語



③ 15時~16時36分

雨月物語



④ 17時~19時17分(終了)

西鶴一代女

あなたは「溝口健二映画」をいくつ

観ましたか？

探検みっぴいの街作りめざします



※藤市民会館は2018年1月6日(予定)まで耐震工事のため仮事務所で営業しております。

2017年9月13日(水) 前売りチケット発売開始

主催) 藤市民会館 カルチャーショックわらび 文化庁 東京国立近代美術館フィルムセンター

共催) 藤市 特別協賛: 木下グループ 協力: 株式会社オーエムシー

前売り券取り扱い) 藤市民会館 048-445-7660 藤市立文化ホール くるる 048-446-8311 他の取り扱い所は裏面です。

木下グループ

1954年 大映・京都

山椒大夫

午前 10時~12時04分

原作 森鷗外
脚色 八尋不二 依田義賢
撮影 宮川一夫
照明 岡本健一
音楽 早坂文雄
美術 伊藤熹朔



出演者

田中絹代 花柳喜章 香川京子 清水将夫 河野秋武
進藤英太郎 香川良介 三津田健 浪花千栄子
菅井一郎 毛利菊枝 (白黒 スタンダード 124分)

解説

溝口健二監督が、森鷗外の短篇小説を原作に中世荘園の奴隷制度における悲劇をリアリスティックに描き、ヴェネチア国際映画祭で『雨月物語』に続く二年連続の受賞に輝いた力作。原作では、姉安寿と弟厨子王は子どものままであるが、映画では成人してからの二人に重点が置かれるとともに、香川京子、花柳喜章という配役から、安寿を妹、厨子王を兄と設定を変えている。そもそも八尋不二による脚色は原作に忠実なものであったが、溝口監督の意向を受けた依田義賢が改定にあたり、奴隷制度や奴隷解放といった社会的側面が強調されるシナリオになったという。宮川一夫の絶妙なカメラによる美しいシーンが随所に見られ、その乾いた画調には鬼気迫るものがある。

1953年 大映・京都

雨月物語

15時~16時36分

【スタッフ】

原作 上田秋成
脚色 川口松太郎 依田義賢
監督 溝口健二
撮影 宮川一夫
照明 岡本健一 録音 大谷巖
音楽 早坂文雄 美術 伊藤熹朔



出演者

京マチ子 水戸光子 田中絹代 森雅之 小沢栄太郎
香川良介 上田吉二郎 (白黒 スタンダード 96分)

解説

上田秋成の短篇を原作に、欲望と幸福、戦争と平和といった普遍的な主題を、戦国時代の二組の夫婦を通じて対照的に描いた作品。溝口健二監督の美学が明瞭に表れている。霧に覆われた湖に行く船や朽木屋敷の描写、森雅之扮する源十郎が故郷の家に帰ってからの場面などに、独特な様式美を感じとることができる。この幻想性は溝口監督生来の資質の一つであり、戦前は『滝の白糸』(1933)など泉鏡花の作品を盛んに手掛けた事実もある。冷徹なリアリストを支えている柱が、洗練された美意識であることを如実に教えてくれる作品であり、やはり溝口監督は日本映画を代表する「美と残酷」の映画作家と言えよう。艶のある画面を作り出したカメラ・宮川一夫の功績も大きい。

1954年 大映・京都

近松物語

午後 13時~14時43分

原作 近松門左衛門
劇作 川口松太郎
脚本 依田義賢
監督 溝口健二
撮影 宮川一夫
照明 岡本健一



出演者

長谷川一夫 香川京子 南田洋子 進藤英太郎 小沢栄
菅井一郎 田中春男 石黒達也 浪花千栄子
(白黒 スタンダード 103分)

解説

1952年に『西鶴一代女』で世界的注目を浴びた溝口監督は、『雨月物語』と『山椒大夫』によって翌53年、54年と相次いでヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した。日本の古典文学を題材にして秀作を発表し、独自の様式美をもって世界的名声を獲得した溝口は、今度は近松門左衛門の人形浄瑠璃「大経師昔暦」を映画化することになった。商家に嫁いだ若妻が、わがままで好色な夫を諫めるために芝居を仕組むが、ちょっとしたはずみから使用人との不義密通の汚名を着せられるが、真実の愛にたどりつくラストシーンに深い感動がある。

1952年 新東宝=児井プロ

西鶴一代女

17時~19時17分 映画会終了

原作 井原西鶴 脚本 依田義賢
構成・監督 溝口健二
監修 吉井勇 撮影 平野好美
音楽 斉藤一郎 美術 水谷浩



出演者

田中絹代 山根寿子 三船敏郎
宇野重吉 菅井一郎 進藤英太郎
大泉滉 清水将夫 加東大介 松浦築枝 沢村貞子
(白黒 スタンダード 137分)

解説

映画化にあたって溝口健二と依田義賢は、女主人公の自己主張や被害者意識を極力排し、男性本位の都合で数奇な人生をおくってしまった女の人生を客観的に凝視する手法で描いた。主人公お春は最底辺に堕ちつつも、過去に出会った男達の五百羅漢の顔に重ね合わせ、思い出しながら、人生の悲喜こもごもを静かに回想する。そして何処ともなく闇の彼方へ去っていく。出会った男の一人に扮する新人だった三船が初々しい。国内ではキネ旬第9位の評価だったが、1952年のヴェネチア映画祭で国際賞を受賞、以後「お春の一生」の題で日本映画を代表するようになりフランスはじめ欧米各国で溝口監督は神格化されることになった。

前売り券・取扱所・車賃仙 (中央) 431-5631 関口商店 (塚越) 442-0867 高海屋 (北町) 431-2438 魚亀 (錦町) 443-6830
根岸クリーニング (南町) 442-4910 戸田市文化会館 (戸田市) 445-1311 塚越 石川 441-5496 中野 442-9991
北町 米田 443-2763 中央 木原 445-4023 小宮 432-5404 錦町 尾崎 443-8018 南町 高松 443-3011 勝島 443-0819
全域 中西 03-5615-1056 日種 267-0691 仲内 444-3176 お得な前売り券を、早めにお求めください。